

感情と感情形容詞について

Emotion and Emotive Adjectives

加藤恵梨

Eri Kato

名古屋大学

Nagoya University

kato.eri@e.mbox.nagoya-u.ac.jp

Abstract

Previous studies have shown that the relativity of polysemy is mainly explained by the metaphor. The purpose of this study is to explain the relativity of polysemy in the emotive adjective by hierarchical evolution process of the brain.

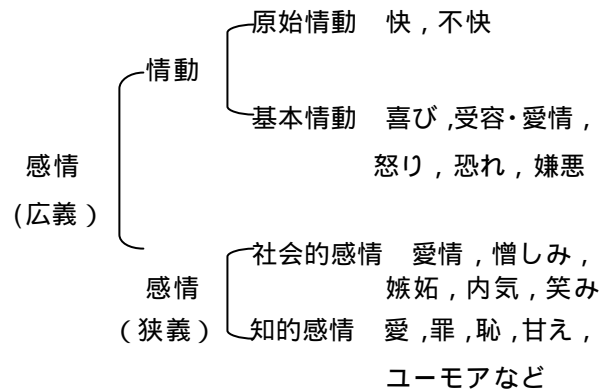
Keywords? emotion, emotive adjective

1. はじめに

ある語に二つ以上の意味が認められる（多義語である）場合，それらの意味の関連性は比喻（メタファー，メトニミー，シネクドキー）や主体化，文法化によって説明できるものが多く見られる。しかし，感情形容詞の中には多義語の関連性を考える際，脳と感情の働きとの関係を考慮し，それに基づいて説明する必要があると考えられるものがある。本発表では「うっとうしい」を例にあげ，「うっとうしい」の複数の意味の関連性が脳の階層性の進化過程によって説明できるのではないかという可能性を示す。

2. 感情について

温血動物の脳が進化論的に見て三つの階層に分けられるという三位一体説を提唱し，脳の階層性に従って感情は進化したと唱える MacLean(1990)を基に，福田（2003，2006a，2006b）は感情を次のように分類している。



すなわち，進化の早い段階で，環境との適応と関係して快・不快の情動が発生した。次の段階では，生物が海から陸に上がり，複雑な環境への対処に必要な判断機能として五つの基本情動が進化し，これが霊長類の複雑な感情のベースになった。さらに，個体が群れや集団の中で生存していくために発生した知性の一種かつ適応の一種が社会的感情である。その上，人間の感情には，霊長類の社会的感情を土台にし，歴史，宗教，思想，信念，科学などの進歩によって知的感情が追加された（福田（2008））。

3. 「うっとうしい」の意味

「うっとうしい」は分析の結果，下の三つの意味をあげることができる。

別義1：皮膚感覚，聴覚，視覚を介して反射的に嫌悪感を抱くさま

別義2：行動を阻害する他者を排除したいと感じるさま

別義3：信念あるいは思想とは異なる見解を非難

するさま

ここで「うっとうしい」の三つの意味について、上で触れた「基本情動」、「社会的感情」、「知的感情」との関係に基づいて説明する。

- (1) 梅雨の季節がきます。じめじめした鬱陶しい時期ですが(後略)
- (2) そろそろ蚊の季節だ。刺されればかゆいし、耳元で飛ばれればうっとうしいし……。
- (3) 普通オープンカーというと布製の幌だから、冬や雨では室内が暗くてうっとうしい。

例(1)から(3)の「うっとうしい」は、皮膚感覚、聴覚、視覚という感覚器官を介して感じられる嫌悪感を表している。上の感情の分類では、基本情動のうちの嫌悪に当てはまると考えられる。福田(2006, p.155)は、嫌悪は身体の内部環境の防御に関係した情動であり、生物が地上に這い上がった複雑な環境の中で生存を確保する必要に迫られたとき、有効な選択基準になったと記している。それぞれの例においても、体調に負の変化をもたらす可能性のある気候、蚊が飛ぶ音により、刺されるという危険が及ぶこと、視覚という重要な器官の機能を妨害する環境を感知し、それらに対する嫌悪感であるということが出来る。

- (4) (大将とは)頼みもしないのに鍋奉行にししゃりでて鍋を引掻き回す、何かにつけ取り仕切って自分のやり方を押しつける、会議で自分の主張ばかり言い立てる、その他同類の人種のことをさす。その言動をみんながうっとうしく思ってきたころを見計らい、(後略)。
- (5) 戦後六十年、キャリアがノンキャリアを支配する構造が完璧にできあがってしまった。本当は警官が仕事で成果を上げれば上げるほど昇進する仕組みを作ればいい。ところがそれはキャリアには不都合なんでしょう。一番難しい試験を通った自分たちにしてみれば、捜査がうまいというだけで階級が上がってくるなんてうっとうしい。

例(4)はししゃりである、あるいは自分のやり方を押しつける他者、例(5)は社会的集団内での個体の

地位を脅かす他者に対して「うっとうしい」と感じている。これらの「うっとうしい」は、個体が円滑な集団生活を送ることを邪魔する他者を排除したい気持ちを表していると考えられる。

- (6) 「送り手は『泣ける』とか、わかりやすい感動ばかりを“強要”するかのようになら、また受け手もこぞって一つのものに対して同じように感じようとする風潮が本当にイヤだ。感動ばかりが幅を利かせる世の中はうっとうしい。状況について懐疑的になってみてほしい」
- (7) 国家が、愛情について語りはじめれば、信念や思い込みや嫉妬についてすら語り始めることになる。それは「経済学で考える」とはかけ離れた、かなりうっとうしい社会になると感じるのは私だけだろうか。

例(6)と(7)は、個体の信念あるいは思想とは異なる見解に対し、それらを受け入れられず、非難するさまを「うっとうしい」と表している。このように、これらの「うっとうしい」は個体の信念や思想に依存した感情である。

以上のように「うっとうしい」の三つの意味は、進化論的感情階層仮説の「基本情動」、「社会的感情」、「知的感情」に対応するものとして考えることができる。

参考文献

- 福田正治(2003)『感情を知る』.ナカニシヤ出版.
- 福田正治(2006a)『感じる情動・学ぶ感情』.ナカニシヤ出版.
- 福田正治(2006b)『情動・感情のメカニズム』『現代思想』, 34, 150-162.
- 福田正治(2008)『感情の階層性と脳の進化 社会的感情の進化的位置づけ』『感情心理学研究』, 16, 25-35.
- MacLean, P.D.(1990)『The Triune Brain in Evolution』. New York: Plenum Press.
- 初山洋介(2002)『認知意味論のしくみ』.研究社.